

長野県における在宅医療提供体制調査結果の概要

医療推進課

1 調査の目的

高齢社会のさらなる進展を見据え、今後の在宅医療の必要量や整備のあり方等を検討するため、県内の在宅医療の提供体制の現状、医療機関等の意向や課題等を把握する。

2 調査の対象・回収状況

- ・ 県内の医療機関及び訪問看護ステーションに対する悉皆調査(自記式調査票の郵送配付・回収)
- ・ 回収状況(H27.12~H28.2)

	対象施設数	回収数	回収率
病院	130機関	91機関	70.0%
診療所	1327機関	848機関	63.9%
訪問看護ステーション	151機関	136機関	90.1%
計	1608機関	1075機関	66.8%

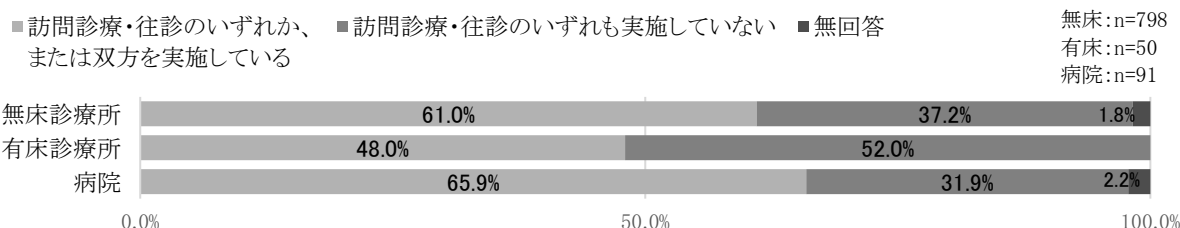
3 主な調査結果

(1) 在宅医療の実施状況

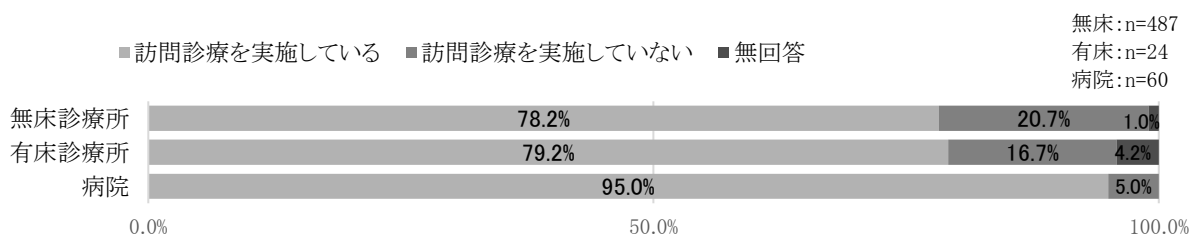
訪問診療・往診の実施の有無についてみると、「訪問診療・往診のいずれか、または双方を実施している」医療機関は、病院では65.9%、無床診療所では61.0%と6割を超えた。一方、有床診療所では48.0%と過半数を割っていた。

実施している医療機関のうち、訪問診療を実施している割合は、病院では95.0%、無床診療所、有床診療所も8割弱となっていた。往診については、概ね日中・夕方にのみ対応している医療機関が病院では41.7%、無床診療所では52.2%、有床診療所では70.8%であり、概ね24時間対応している施設は全類型とも25%程度であった。

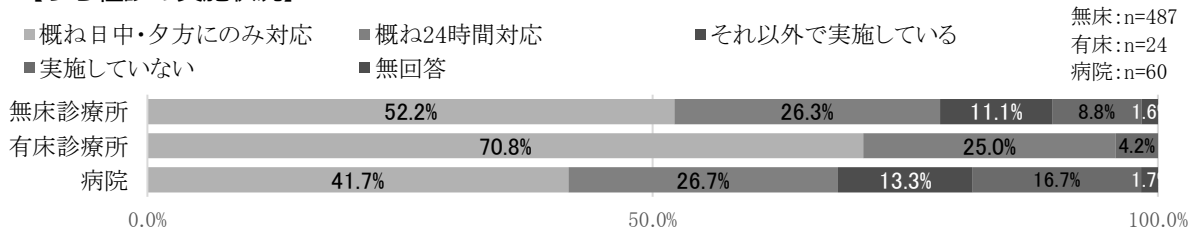
【在宅医療の実施状況】



【うち訪問診療の実施状況】

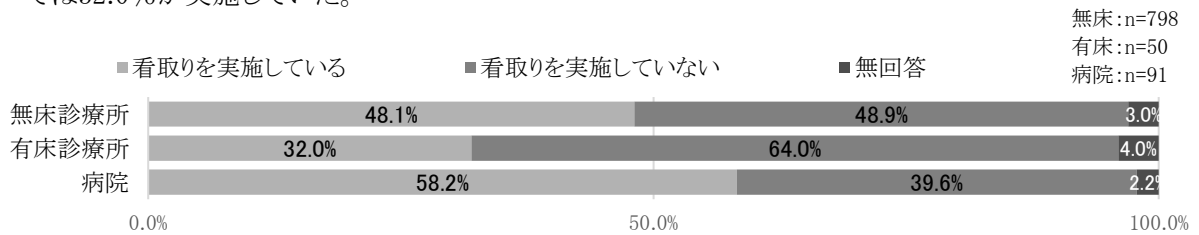


【うち往診の実施状況】



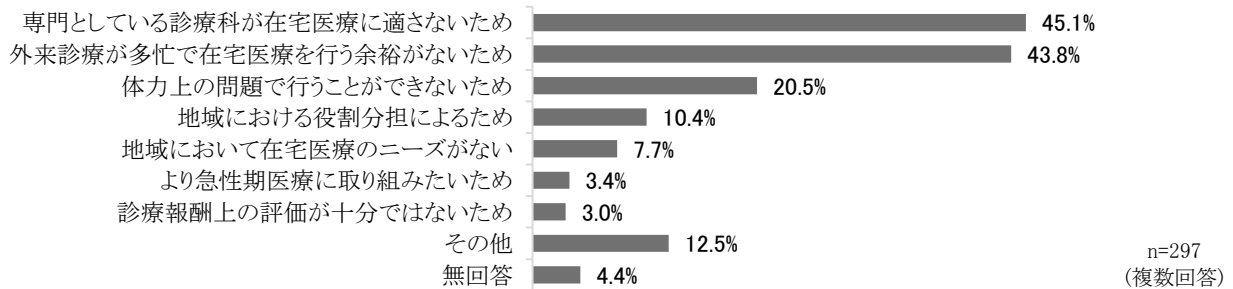
(2) 看取りの実施状況

在宅での看取りの実施状況についてみると、病院では58.2%、無床診療所では48.1%、有床診療所では32.0%が実施していた。

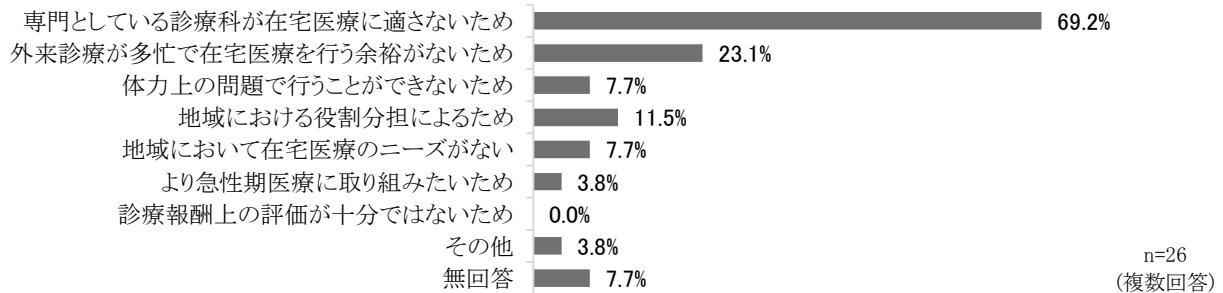


(3) 在宅医療（訪問診療・往診）のいずれも実施していない理由

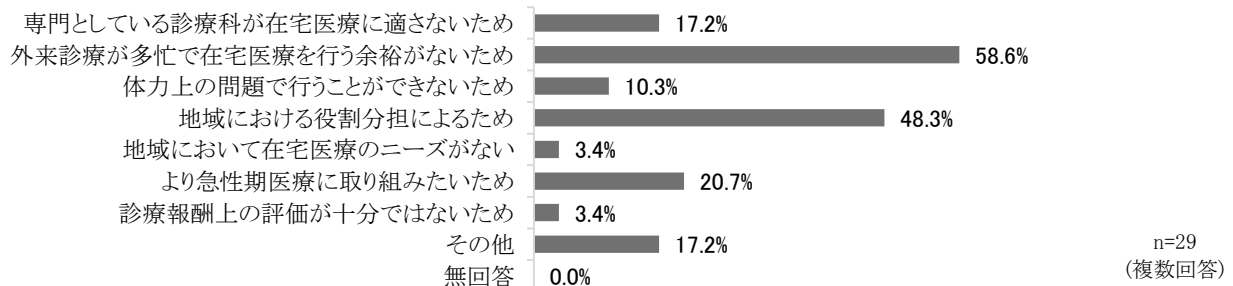
【無床診療所】



【有床診療所】

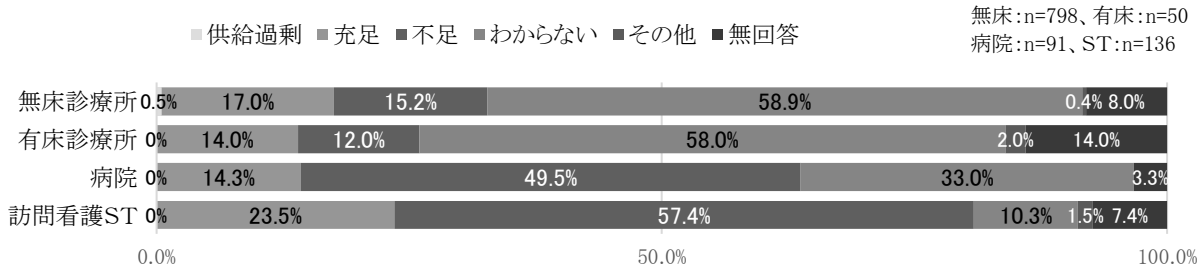


【病院】



(4) 日常生活圏域の在宅医療機能（訪問診療）の充足状況

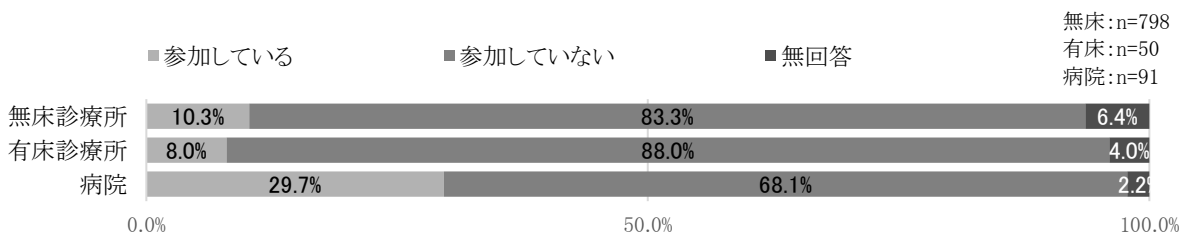
自院が属する日常生活圏域内の在宅医療機能の充足状況（訪問診療）についてみると、病院では「不足」（49.5%）が最も多かったが、無床診療所、有床診療所では「わからない」が5割を超え、最も多かった。一方、ステーションでは自地域の訪問診療が「不足している」との回答が57.4%と最も多かった。



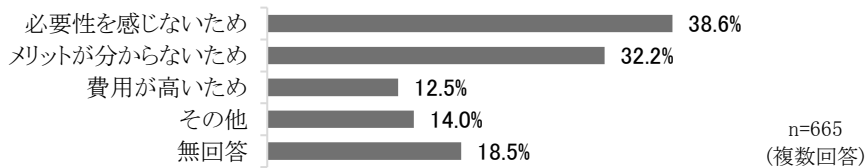
(5) 医療機関、訪問看護ST、介護事業所等が患者情報を共有するためのICTを用いたネットワークについて

在宅医療関係機関間で患者情報を共有するために、ICT（情報通信技術）を用いたネットワークへの参加状況については、病院では約3割が参加しているが、有床・無床診療所では80%以上が不参加であった。不参加の理由について、病院では「メリットがわからない」（37.1%）が最も多く、有床・無床診療所では「必要性を感じない」という回答が最も多かった。

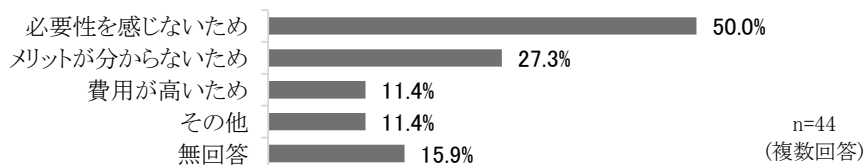
【ネットワークへの参加状況】



【不参加の理由：無床診療所】



【不参加の理由：有床診療所】



【不参加の理由：病院】

